

令和7年度「全国学力・学習状況調査」の結果 －分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について－

区名	北区
学校名	大阪市立豊仁小学校
学校長名	塩田 武史

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和7年4月17日（木）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数・理科）に関する調査」と「児童質問調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数
- ・理科

(2) 質問調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・大阪市立豊仁小学校では、第6学年 48名

令和7年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

国語では、平均正答率は大阪市を1ポイント上回り、全国平均からは-0.8であった。また、算数では、平均正答率は大阪市、全国ともに6ポイント上回った。理科においては、平均正答率では大阪市とは、同一、全国を2.1ポイント下回った。平均無回答率では理科、算数においては、大阪市、全国よりも低かった。国語においては、わずかながら大阪市、全国よりも高くなっている。児童一人一人は、真摯に問題に取り組んでいたことがうかがえる。

児童質問紙では、自尊感情や自己肯定感、自他の尊重、規範意識などどの項目も肯定的に回答する児童が多い。また、学習においては、ICTを活用した学習を進めている児童が多いことがうかがえる結果となっていた。

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

〔国語〕

平均正答率は、「言葉の特徴や使い方に関する事項」「書くこと」「読むこと」においては大阪市、全国を上回ることができた。「情報の扱い方に関する事項」「我が国の言語文化に関する事項」「話すこと・聞くこと」においては大阪市、全国ともに下回っており、今後さらに指導方法の工夫、改善できるよう取り組む。

〔算数〕

平均正答率において、「数と計算」だけ上回ることができた。他の4領域は下回っているが、ほとんど差はない。これは、習熟度少人数指導で丁寧に指導した成果である。すべての領域において大阪市、全国を上回ることができるよう、引き続き基礎学力の定着に取り組んでいく。

〔理科〕

平均正答率において、「粒子を柱とする領域」「地球を柱とする領域」については、大阪市、全国を上回ることができた。「エネルギーを柱とする領域」と「生命を柱とする領域」においては、大阪市、全国を下回る結果になり、特に「生命を柱とする領域」に課題がある。学習後のふり返りを行い、定着を図るようにする。また、児童が明確な目的を設定し、設定した目的を達成できるよう取り組んでいく。

質問調査より

基本的な生活習慣においては、大阪市、全国平均とほぼ同様の結果である。「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」「人が困っているときは、進んで助けていますか」に肯定的に答える児童が9割を超え、他者を思いやる児童が多いことがわかる。今後も「異学年交流」や「多文化共生教育」などの取り組みを継続して、豊かな心の育成に努めていく。また、授業や調べ学習において、ICTを活用していると答えた児童は9割を超え、児童の学習にICT機器は十分活用されていることがわかる。引き続きICT機器を活用した授業づくりをし、児童が率先してICT機器を活用できるよう取り組む。

「読書は好きですか」に関しては、大阪市、全国を下回り低い結果となっている。読書に興味を持ち、読書好きな児童が増えるよう、読書環境の整備や本と触れ合う時間が持てるように取り組む。

今後の取組(アクションプラン)

- ・国語の研究を進め、個別最適な学びの実現を目指して授業の進め方の工夫、改善を図り児童の学力向上を目指す。
- ・調べ学習や、話し合い活動を通して対話的な学びあい活動をすることにより、児童の学びが深まるよう取り組む。
- ・ICT活用についての教職員の研修を充実させ、ICT教育を推進する。
- ・様々な学校行事、学校生活を通して、他者を思いやる気持ち、自尊感情の向上に向けた取り組みを行う。
- ・学校と家庭での学習の一貫性が大切であることを保護者に伝え、学力向上に一層取り組んでいく。
- ・読書に興味が持てるよう、学級文庫の充実を図り、図書ボランティアや図書委員会による図書室の開放に多くの児童が参加できるよう働きかける。

